

資料②

SWOT分析の方法・手順

2005年1 2月

検討手順 1 : 分野別SWOT分析①

➡ SWOT分析とは

- 限られた資源・財源を有効に活用する、施策・事業を重点化するために、強み・弱みや外部環境(機会・脅威)を分析し、より重要な課題を抽出するために行います
- 政策や施策を展開する上での地域資源や行政内部資源、および地域や組織を取り巻く外部環境を整理したもの。
- 内部資源については「現状」に関する強み (Strengths) と弱み (Weaknesses) を、外部環境については「将来」に関する機会 (Opportunities) と脅威 (Threats) を整理することにより、課題を検討する際の材料とする。

➡ 実際の検討では、SWOT分析・重点課題検討フレームを活用して分析・検討を行う

- SWOT分析・重点課題検討フレームでは、SWOT分析と重点課題検討をシート上で整理すると分かり易い
- 現在取組むべき真の課題を考える際に、組織の内部環境と外部環境を分かり易く対応させて検討していく

SWOT分析のフレーム

内部環境

S(強
み)

W(弱
み)

外部環境

O(機
会)

T(脅
威)

SWOT分析・重点課題検討フレーム

		内部資源分析	
		強み (Strength)	弱み (Weakness)
SWOT分析と 重点課題抽出		S	W
	機会 (Opportunities)	強みで機会を活かすための課題	弱みを強化して機会を逃さないための課題
	O		
	脅威 (Threats)	強みで脅威を克服するための課題	弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題
	T		

重要課題の検討

検討手順 1 : 分野別SWOT分析②

SWOT分析の実施

- まず、当該分野に関連する地域資源や組織の内部資源を強み・弱みに、マクロな社会経済環境など（機会／脅威）を整理する。

SWOT分析の記入例

※この表は、参考事例であり、宇都宮市を分析したものではありません

内部環境

強み（Strengths）

- 地域や市内の特徴的な資源やポテンシャル
- 特徴があり効果的に行われている施策や事業
- 行政運営にあたっての組織・人材・施設等の特徴や優位性
- 今後、さらに伸ばしていくべきポイント

記入例）

- 計画的な都市整備により充実した広域幹線道路を有している
- 市民のボランティア活動が極めて活発である。

弱み（Weaknesses）

- 当該分野において足りないと考えられる産業や施設などの資源
- 周辺自治体と比べて劣っている施策や事業
- 行政運営にあたっての組織・人材・施設等における弱点
- 今後強化しなければならないポイント

記入例）

- 福祉施設の整備の水準が周辺と比較して劣っている
- 中心市街地からの事業所離れが進んでいる

外部環境

機会（Opportunities）

- マクロ的な経済環境や社会環境などのうち、行政運営を行う上での追い風となるような事象
- 何かしらの手を打つことにより、市民の公共の福祉が飛躍的に高まるような行政運営の機会

記入例）

- 市町村合併の潮流により、新たな行政機会の可能性が生じている
- 全国的・国際的に環境意識が高まっている

脅威（Threats）

- マクロ的な経済環境や社会環境、地域環境などのうち、行政運営上の大きな課題となっているような事象
- 何も手を打たないと、市民の公共の福祉が著しく損なわれてしまうような外部の環境や事象

記入例）

- 高齢化が急速に進展している
- 不況にともない全国的に自治体財政状況が逼迫している

検討手順 1 : 分野別SWOT分析③

SWOT分析の目的と作成上の留意点①

SWOT分析は、分野に特に関係があるものについて検討します

- SWOT分析を行う際には、各分科会のテーマに係りの深い課題や政策・施策について検討します
- 各分科会のテーマとの関連はもちろん重要ですが、それにとらわれすぎることなく外部環境や内部環境を記述するように心掛けます

SWOT分析の目的と作成上の留意点②

SWOT分析は、一つ一つの項目を具体的に考えることが重要です

- SWOT分析を行う際には、「少子高齢化」や「中心市街地の空洞化」という抽象的な項目を挙げるのではなく、「少子高齢化のため、高齢者を中心とした交通弱者が増加する」というような具体的な項目を挙げます

検討手順 1 : 分野別SWOT分析③

SWOT分析の目的と作成上の留意点③

外部環境の機会と脅威は、該当分野が置かれている状況によって異なります

- 例えば「全国的・国際的な環境意識の高まり」という外部環境の潮流は、分別収集や廃棄物処理の料金徴収を行おうとする場合は、機会となり得ます
- しかし一方で、工業団地の整備や企業の誘致といった施策や事業にとっては、脅威となるかもしれません
- このように、ひとつの事象であっても、主体や分野が変わった場合には外部環境の捉え方が異なります

検討手順 2 : 分野別重点課題の抽出①

重要課題検討フレームによる組織の重要課題の検討

- SWOT(強み・弱み、機会・脅威)結果を用いて、次に機会・脅威に対して強みが活かせるか、もしくは弱みをどう強化すべきか、といった観点から取り組まなければならない課題を検討する。
- 『背景(外部環境)に対して、手段(内部資源)を用いて、目的(何をする)』というように、具体的に検討していく

		内部環境	
		S : 強み	W : 弱み
外部環境	O : 機会	機会を捉えて強みをさらに強化するための課題は？	弱みを強化して機会を逃さないための課題は？
	T : 脅威	強みを強化して脅威を克服するための課題は？	弱みを強化して最悪の事態を避けるための課題は？

検討手順2:分野別重点課題の抽出②

SWOT分析結果イメージ

- 強みと機会、強みと脅威、弱みと機会、弱みと脅威を掛け合わせる事により、課題が抽出される

※この表は、参考事例であり、宇都宮市を分析したものではありません

内部資源分析			
SWOT分析 重点課題検討表	強み (Strength)		弱み (Weakness)
	教育活動に協力的な民間事業者の存在		外国語を話せる教員が少ない
	一定の質・量が確保された教育施設		ITリテラシーを教えられる教員が少ない
	教育系NPOが育ってきている		総合学習などマニュアルのない授業に対応できない教員が多い
外部環境分析	機会 (Opportunities)	強みで機会を活かすための課題	弱みを強化して機会を逃さないための課題
	国際化の進展により、英語を中心とした外国語能力が求められる		英語教育需要の高まりに対して、教員の英語力向上をはかる
	自ら学び、自ら判断できるようになる教育が求められている	自ら学び、判断出来るようになるという教育ニーズに対して、民間事業者との連携によりディベートや意思決定・マネジメント等が学べる機会を提供する	
	体験学習や総合学習ニーズの高まり	体験学習・総合学習ニーズの高まりに対し、NPOと連携することによって幅広い実践的な教育サービスを提供する	
	情報社会化によるIT教育ニーズの高まり		ITリテラシー教育ニーズに対応するために、教員のITスキルを強化する
外部環境分析	脅威 (Threats)	強みで脅威を克服するための課題	弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題
	英語による一般教科科目へのニーズの高まり		英語による一般科目教授需要に対応するために、英語圏から当該科目講師を招聘する
	子どもの安全管理・確保	子どもの安全確保のために、NPOと協力して域内パトロールを行う	
	実用性の薄い教育への批判	実用性の低い教育を回避するために、民間事業者と連携することにより、実践的な教育機会を提供する	
	少子化による児童・学生数の減少	児童の減少に対して、小中高の教員数や施設を徐々に縮小する	
	家庭の教育力の低下	家庭の教育力低下に対応するために、NPO等と連携し、地域全体で教育する体制を築く	